

新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ 今後の発生状況はどうなっていく？

～呼吸器系ウイルスの疫学等に関する調査・研究～

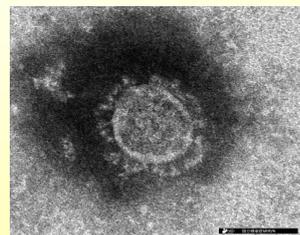


長野県内の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等のウイルス性呼吸器感染症を中心に、患者発生状況やウイルス株の変異などを継続的に調べ、予防対策につなげます。

なぜ研究が必要なの？

2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の五類感染症に分類替えされました。しかし、流行の繰り返しや、新たな変異株が出現する恐れがあるなど、注意が必要な感染症のひとつに変わりありません。そのため、流行しているウイルス株の遺伝子系統を確認していくことは重要です。

また、同様の呼吸器感染症が発生した場合に備え、原因となるウイルスを迅速に検査する体制を整備しておくことは、今後、感染症の危機管理対策として必要です。



新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所HPより)

どうやって把握するの？

新型コロナウイルスの変異株

流行している新型コロナウイルスの全ゲノム遺伝子配列を調べ、国立感染症研究所が中心となって実施している病原体ゲノムサーベイランスシステムで解析し、新型コロナウイルスの分類（BA.2、BA.5など）を調べます。また、感染経路などを比較したい場合、ウイルスの全ゲノム遺伝子配列からハプロタイプネットワーク図を作成し、疫学情報との関連性を調べます。

呼吸器系感染症（インフルエンザと新型コロナウイルス）の流行状況等を把握

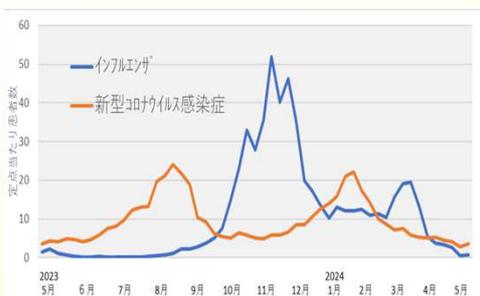
呼吸器系感染症の流行状況（主にインフルエンザと新型コロナウイルス感染症）やインフルエンザウイルスの検出状況について調べます。

その他の呼吸器系ウイルス検査の体制の整備

R Sウイルス、ライノウイルスなど呼吸器感染症の原因となるウイルス検査について、核酸多項目同時検出法により、結果が迅速にわかる方法を検討します。

これまでに分かったこと

新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの流行状況



2023年5月から2024年5月までの新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの定点当たり患者数の推移です。5シーズンぶりにインフルエンザが流行し、AH1pdm09亜型、AH3亜型、B型ビクトリア系統のインフルエンザウイルスが混在して感染が流行していました。新型コロナウイルス感染症は流行のピークが2回(8～9月、1月～2月)確認されました。(分類は解析中)



リアルタイムRT-PCR検査結果

当所で実施したA型インフルエンザウイルスのリアルタイムRT-PCR検査において、2023/24シーズンの流行株のうち、AH1pdm09亜型インフルエンザウイルスの一部のウイルスでプローブ領域に変異箇所があることが確認されました。